

## 12/12 伝統文化通じて農業理解【第2回ふれあいしめ縄づくり体験】



JA筑紫は、本店で「第2回JA筑紫ふれあいしめ縄づくり体験」を行いました。この体験は、JAが取り組む「ふれあい活動」の一環。日本の伝統文化である「しめ縄」を作る体験を通して、地域との交流や、参加者の農業への理解を深めることを目的としています。JA管内在住の54名が参加しました。

当日は、直売所ゆめ畑の出荷者の方などを講師に招き、リース型のしめ縄づくりに挑戦。参加者の方々は、講師の慣れた手つきを見習い、昔ながらの正月支度を体験しました。足など全身を使つての作業に汗をかき、悪戦苦闘しながらも、参加者同士で教え合う姿も見られました。参加者の方は「自分で作ったしめ縄を、自宅の玄関に飾るのが楽しみ」と話していました。

## 11/15 地域のまつりでJAをPR【南畑支店】



南畑支店はふれあい活動の一環として11月15日、那珂川町市ノ瀬の中ノ島公園で開かれた「第14回 那珂川町中山間ふる里まつり」に参加しました。

支店は、手軽に収穫を楽しめる「みず菜の収穫体験」を地元組合員の方のビニールハウスで行い、137家族334名の組合員・地域住民が参加しました。

参加者の多くは、初めてのみず菜収穫体験に心を弾ませ、ビニール袋いっぱい収穫する姿が見られました。「今晚食べるのが楽しみ。」や「貴重な体験が出来た。」など、好評な意見が寄せられました。

南畑支店の川口敏明支店長は「たくさんの地域の皆さんと交流が出来た。地元野菜やJA筑紫のPRができて良かった。」と話していました。

## 11/7 地元産米をPR 「いきいき商工農フェスタ」

11月7日、筑紫野市文化会館で開かれたイベント「第11回いきいき商工農フェスタ」に参加しました。JA筑紫産のもち米でついた紅白餅の餅まきを実施し「農」のPR活動を行いました。

イベントは、「商工農業者と消費者のふれあいの場」として開催。JAも「ふれあい活動」の一環として、参加しています。当日は、農業女性グループのメンバーや営農生活部、米販センター職員が合同で、JA筑紫米の試食を配って、地元産の美味しさをPR。「元気つくし」「夢つくし」などの品種を販売しました。また、JA筑紫マスコットキャラクターの「ちくしんぼー」と「ゆめっぴー」も会場に登場。子供達に大人気で、イベントを盛り上げました。

## 10/25 地元農産物をPR 【那珂川地区】



那珂川地区は10月25日、「ふれあい活動」の一環として、那珂川町のミリカローデン那珂川で開かれた「農つエら商(のっこらしよ)inなかがわ」に参加しました。ゆめ畑那珂川店と合同で地元農産物等を販売し、PR活動に努めました。販売ブースには、地元野菜を中心に農産物を多数揃え、職員達は来場者に地産地消を呼び掛けました。

来場者からは「地元産の新鮮で安全安心な野菜が購入できて嬉しい。」など、好評な意見が寄せられていました。

## 8/5 児童、米について学ぶ 【山口支店】



山口支店は、筑紫野市の山口コミュニティーセンターで行われた「夏休み子どもひろば」を共催し、

小学生と保護者合わせて36名と「JAの田んぼ探検&おにぎりづくり」を行いました。

支店職員と営農生活部職員は、米の栽培についてや、田んぼの生き物について説明。その後、参加者たちは虫取り網を片手に、田んぼ探検へ向かいました。稲の状態や、田んぼに生息する生き物をじっくりと観察していました。

その後、山口支店にてJA女性部が「お米さん・ありがとう音頭」を披露。田を耕し、田植えや刈取り、脱穀をするまでの手順を踊りながら児童に説明しました。最後に女性部と児童が一緒におにぎりを作り、自分で作ったおにぎりの味に「美味しい！」と児童は大喜びでした。

### 8/3 地元野菜で、美味しく健康に！【日の出支店】



日の出支店は、福岡女学院大学で「集まれ！ Sweet Smart Girls！」と題したお菓子作り教室を開きました。JA専属フードコーディネーターの古賀美里さんを講師に迎え、同大学の学生35名が参加。

この企画は、JAが取り組む「ふれあい活動」の一環。地元産の有機野菜を使ったお菓子を作り、美味しく食べることで、学生に野菜や食について興味を持ち、JAを身近に感じてもらうと、大学の学生会総務の学生と共同で企画しました。

当日は、講師による調理説明と実演を交えながら、参加した学生は楽しく調理を進めていました。メニューは、材料に地元産の有機野菜を使用した「ゴボウのフロランタン」「ニンジンのパンナコッタ」など計3種類。講師の古賀さんは、野菜の栄養が体調にどのような効果があるのかを説明し、「食べないダイエットはオススメしない。栄養を考えて、食べて綺麗にダイエットしましょう。」と女性ならではのアドバイスをしておっていました。

### 7/3 園児がニンジン収穫体験【御笠支店・針摺支店・原田支店】



御笠支店・針摺支店・原田支店の3支店はこのたび、筑紫野市阿志岐の圃場（ほじょう）で幼稚園児と「にんじん収穫体験」を行いました。たかお幼稚園の園児と先生、支店職員が参加。

この体験はJAが取り組む「ふれあい活動」の一環。収穫体験を通して、園児らや関係者に、農作業の大変さや収穫の喜びを体感してもらい、「農業」を身近に感じてもらうと企画。当初は、同幼稚園を含む4つの幼稚園の園児約800名が参加する予定でしたが、天候不良によりこの日のみの開催となりました。園児は土だらけになりながら、一生懸命ニンジン収穫し、「大きいニンジンがとれたよ！」「早く自分でとったニンジンを食べたい。」と嬉しそうに話していました。

#### 6/17 小学校赤米づくりに今年もJAが指導・支援【太宰府支店】



太宰府小学校で「赤米づくり指導・支援活動」を行いました。5年生の児童約90名と先生、「北谷米づくり隊」に所属する地元農家、JA青壮年部太宰府支部のメンバー、太宰府支店・営農生活部職員など計6名が参加しました。

太宰府小では、5年生の総合学習の時間に、児童が播種から稲刈りまでを体験します。2月頃に「赤米フェスタ」を開き、赤米のレシピ等を発表する予定です。授業では、児童達は校内にある約1.4畝の田んぼに入り、作業を行いました。参加した児童は「植え方が難しかった。農家の方の大変さを感じた。」と話していました。

#### 6/13 子供達とサツマイモ苗定植【太宰府中央支店】



太宰府中央支店は、太宰府市観世音寺のほ場で、地元自治会役員と共に「親子芋ほり収穫体験」に向けた苗の定植作業を行いました。活動には、地域の小学生や保護者、地元自治会役員、支店職員など約160名が参加。地元の子供達に、親子のふれあいと、食と農の大切さを理解してもらうことが目的で開催しています。

参加者は、サツマイモの苗（紅あずま）を丁寧に定植。今後、11月頃に収穫作業を予定しています。参加した職員は「今後もふれあい活動を通して、地域に親しまれるJAを目指したいです。」と話していました。

## 6/9 グラウンドゴルフ大会でファン作り【片縄支店】



片縄支店は、那珂川町岩戸公園のグラウンドで「第1回片縄支店長杯交歓グラウンドゴルフ大会」を開きました。大会の運営は、年金友の会世話人の協力を得て、79名の参加者が上位入賞を目指し、大いに盛り上がりを見せました。

この大会は、今回初めての取組みです。地域の年金世代でグラウンドゴルフ愛好者を対象とし、ふれあいを通したJAのファン作りを目的としています。表彰式では、上位10名にJA管内で栽培された米5<sup>キ</sup>等が贈呈され、受賞者達に称賛の拍手が送られました。片縄支店の藤崎寿代支店長は、「初めての取組みでしたが、大盛況で終わることができました。これからも、JAのファン作りを目指し、継続して開催していきたいです。」と話していました。

## 5/20 赤米育て、食農教育【太宰府支店】

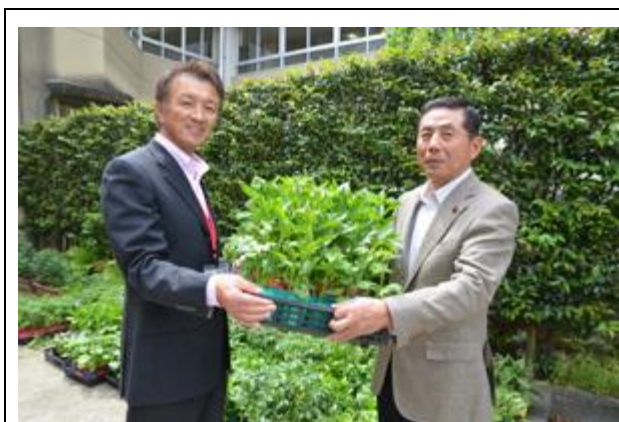


太宰府支店は5月20日、太宰府市立太宰府小学校で「赤米の播種」を行いました。5年生の生徒約90名と先生、「北谷米づくり隊」に所属する地元農家、JA青壮年部太宰府支部、支店職員と営農生活部職員など参加しました。

太宰府小学校では、5年生の総合学習の時間に、児童が播種から稲刈りまでを体験します。10年以上続き、児童に農業の大切さや、食物のありがたみを感じてもらい、食農教育に繋げる目的です。

授業では、地元農家を代表して太宰府市の平島省一さんと、営農生活部職員が、種もみの選別方法や播種の手順を説明。その後、児童達は丁寧に播種作業を行いました。

#### 5/14 自分で育てた味を小学校に野菜苗寄贈【那珂川支店】



那珂川支店は、5月14日、那珂川町立岩戸小学校に野菜苗を届けました。

この活動は、JAが取り組む「ふれあい活動」の一環。野菜を育てる難しさや収穫の喜びを児童達を知ることで、農業や食の大切さを実感してもらいたいと、支店が企画しました。

当日は、JA筑紫理事の結城吉弘さんと、支店職員がトマトやオクラ、ナスなど約520本の野菜苗を贈呈。苗は全校児童1人1人に渡され、学校や自宅で育てます。

結城吉弘理事は「自分で育てた野菜の味は格別。ぜひ味わって欲しい。児童達の感想を聞くのが楽しみ。」と話していました。

#### 4/28「おいしくなあれ！」園児と夏野菜の苗定植【大野東支店】



4月28日、大野東支店は支店裏の圃場(ほじょう)で、幼稚園児と夏野菜の苗植えを行いました。支店の近隣にある大野東幼稚園の園児77名と先生、青壮年部大野城支部のメンバー、支店職員が参加しました。

この企画は、JAが取り組む「ふれあい活動」の一環。園児達に野菜の苗植えから収穫までを体験してもらい、自分で育てた新鮮な野菜を味わうことで、育てる苦労や収穫の喜びを実感してもらおうと企画しました。

この日は、トマトやナス、トウモロコシなど計5種類の夏野菜の苗を用意。青壮年部のメンバーや同支店職員と一緒に、小さな手で植え替えを行いました。「おいしくなあれ。」と苗に話しかけ、収穫の日を心待ちにした園児の姿が見られました。

大野東支店の児嶋正美支店長は「園児達の元気に、こちらもパワーをもらった。今後も地域とのふれあいを大切にしていきたい。」と話していました。